



欧州ラドン療法研究会 北投温泉・新湯治会議レポート

2024年2月18日・北投温泉会議報告

「2024年度 台湾アジア太平洋国際温泉観光協定例会議」

2024年2月28日・環境省チーム新湯治会議報告

「温泉地の活性化に向けた各種支援制度の活用法」

会場「台北市・北投温泉街 北投水美温泉会館」



2月18日、台北市・北投温泉協会による理事会が開催されました。当研究会も会員として名誉理事を担っていることから zoom にて参加致しました。今回の理事会では、昨年開催された臺北温泉祭りの大成功と、その感謝の言葉から始まりました。コロナ禍以降開催された臺北市内のイベントでは、最大規模の集客が記録されたそうです。また、日本からの参加された温泉地域からは、海外からのお客様の動向の変化への対応に追われている事が報告されました。一番の要因はコロナ禍以降、旅行スタイルが団体から個人への移行だそうです。より個性的で趣向性が際立つ内容を求める客層へのマーケティングが追い付いていないのだと感じました。

さて、今年度から通常通り理事会は2度開催されます。今年の1度目の会場は山形県米沢市が予定されています。会期は6月27日の前後で2日間が予想されます。米沢の観光協会は銘酒「東光」で有名な小嶋酒造さんが中心となり活動されています。日本酒に興味のある方は是非参加をご検討ください。詳細は追って報告いたします。

会場「TKP 東京駅大手町カンファレンスセンター」



2月28日、東京の大手町の会議室にてチーム「新・湯治」の定例会議が開かれました。今回は「温泉地の活性化に向けた各種支援制度の活用法」をテーマに、支援事業に採択された民間事業者の報告と、それを支援している行政側の指導方針を交えた内容となりました。余談になりますが、温泉事業に関する行政支援が多い事にびっくりしました。

さて、具体的な内容で興味深かったのは、温泉デリバリーの事案です。千葉県の事業者の報告でしたが、温泉質の特徴を活かし、「泉質の効能をお届けする」をコンセプトにした事業計画です。温泉デリバリーに関する事業は以前から知られていますが、敢えて「泉質」にこだわり効能を届ける事をウリにした訳です。当研究会のテーマである「ラドン」も、まさにこの「泉質の効能」が事業の柱となっています。詰まるところ、泉質をウリにした事業案は、目新しく写り期待される事業計画として捉えられた訳です。ラドンは療養泉として温泉法にも明記されています。私たちの活動でもラドン温泉の効能を分かりやすく表現し、活用していく事が重要であると感じました。